

1. イエン・チリト被告入院、元ポト派幹部容体悪化

旧ポル・ポト政権の幹部だったイエン・チリト元社会問題相(82)が体調不良により、約2カ月前からタイの病院に入院していることが分かった。1970年代後半のポト派政権による大虐殺を裁く特別法廷で起訴されたイエン・チリト被告は、認知症で裁判ができないとされ、2012年9月に釈放されている。家族によると、被告は肺と腎臓の疾患でタイの首都バンコクにある病院の集中治療室(ICU)で治療を受けているが、容体は徐々に悪化しているという。

2. 8/07に判決言い渡し、元ポト派最高幹部2被告

5/29、旧ポル・ポト政権による大虐殺を裁く特別法廷は、ポト派ナンバー2だったヌオン・チア元人民代表議会議長(87)とキュー・サムファン元国家幹部会議長(82)の元最高幹部2被告について、罪状ごとに分割審理している最初の裁判の判決を8/07に言い渡すと発表した。検察側は昨年10月、2被告にそれぞれ最高刑の終身刑を求刑した。

3. 半年間で850回のストライキが発生



General Commissariat of National Police の発表によると、今年に入ってからデモ活動とストライキが合わせておよそ850回行われたという。単純に計算すると1日に6回以上となる。この結果について、政治家やNGO団体、労働組合等が労働者達のストライキを誘発し、国の治安を低下させているとして非難する内容の主張も同時に発表。しかし人権団体や野党は、「この数値を用いて非難合戦を行うのではなく、政府はこの全国的に広がっている労働者たちの不満のもとがなにか、例えば労働状況や人権侵害といった事項の見直しを図るように努力す

べきだ」と主張している。

今回の発表は、国家警察発足69周年に合わせて発表されたものである。そのなかで警察本部長の Neth Savoeun 氏は、土地紛争や立ち退き問題、人権問題等を含む数々の問題により計842回のデモ、ストライキをもたらしており、ときには暴動、乱闘、公共道路の閉鎖などを招いたと書き、「デモ等の活動により、治安対策が複雑化してきています。また、デモ活動は政治家や市民団体、労働組合等の干渉を受けている場合が多いようです」と述べている。また、ストライキによって施設や備品が破壊されたこと、投資家の生活がおびやかされていること、警官隊がストライキ参加者を攻撃したことなども細かくレポートには明記されていたが、1月の中旬に少なくとも4人が警官隊の銃撃により死亡したこと、衝突のなかで行方不明となった16歳の労働者も死亡が想定されていることなどは一切触れられていなかった。また警官隊が、1月に勃発した抗議活動のなかで、治安を維持するためには実弾使用は必要なものだった、と主張する一方、平和的な活動を行う活動家やプノンペンでの集会などが、ここ数ヶ月暴力的に蹴散らされている事実やその際に無関係の人やジャーナリストを傷つけることを起こっていることなどは、述べられていない。

国家警察のスポークスマンである Kirth Chantharith 氏は、半年も立たないうちに850回ものストライキが起こったというのはとんでもない数であるようにも思えるが、これはカンボジア西側のダム施設計画があるラタナキリの少数民族が起こしたものや、プノンペンのフリーダムパークで行われたものまで全てを包括しての数値であることを強調した。また、内務省の Sar Kheng 氏は、「去年は外国人に対する卑劣な犯罪が増加しましたが、これはカンボジア救国党がデモ活動を繰り返したため、国の警察官が不足する状態になってしまったためです」と話している。

野党のスポークスマン Yim Sovann 氏は、「警察はただ与党のエリートを守るためだけにしか働いていない。与党は市民を守るためではなく、それぞれ個人の権力を守るために警察を動かしています。カンボジアで正義が実現されない限り、ストライキはこれからも止むことはないでしょう」と話している。

また、Licadho の調査員である Am Sam Ath 氏は、今回発表された842回というデモ活動の発生回数に関して、それは疑いはないとし、「多いようですが、確かにわれわれはそれほどのデモ活動が実際に起こるのを見てきました。労働者たちがなぜそのような手段をとるのか、政府は理由を突き止めなくてはなりません。もし、人々が十分な額の最低賃金を得ており、土地を誰かに奪われない状態であれば、こんなことが起こり得たのでしょうか。これは政府の責任です」と話した。

警官隊のスポークスマン Kheng Tito 氏は、デモ活動発生の多さを見て、「私達警官隊は、これまでより一層力を入れて社会を守らないといけません。カンボジア人民党と救国党の争いが終わらない限り、デモ活動の回数はこれからも増え続けるでしょう」と述べた。

4. アパレル・労組、政府とスト対応協議

5/26、世界的なアパレル大手ブランドと労働者団体が、カンボジア政府とカンボジアの縫製工場で頻発しているスト、労働者の権利について協議する。今年2月にも同様の協議が開かれていたが、それ以降も多数の組合メンバーがストライキを計画したとして逮捕された。首都プノンペンでは今年1月初め、賃金引き上げなどを求めた労働者に対し、治安部隊が発砲、1人が死亡し、20 数人が逮捕される事件が起きた。労働者団体は今回、死亡原因の究明と、起訴されて5月30日に判決が下る予定のデモ主導者ら23人の扱いについても、政府と話し合う。カンボジア縫製業民主労働組合連合(CCAWDU)のメンバー8人が23日、南部タケオ州で逮捕された。CCAWDUのアト・トーン書記長によると、JSDテキスタイルの工場で、組合員が従業員を扇動したとして拘束された。労働者友好組合組織(WFUF)のメンバー2人も同日、首都プノンペンのポーセンチー郡にあるカンボ・ハンサムMの工場でデモを主導して2日目に拘束された。その後、従業員約1,000人が国道4号線を封鎖し、同じ韓国企業の近隣の工場まで行進。2人は封鎖解除と引き換えに解放された。5月上旬にも2つのデモを扇動したとして、組合員計9人が逮捕されていた。

5. スヴァイリエン州バベットのストライキの顛末

①5/01、バベットのストライキで逮捕者

スヴァイリエン州バベットの経済特区において、全ての工場を操業停止に追い込む事態となった大規模なストライキで、初めての逮捕者が出た。Best Way 工場で働く21歳のChan Sarinさんは、ストライキの2日後に逮捕され、器物損壊の罪に問われている。Chantrea 地区警察のTo Sithorn氏は、「彼は中国人男性の保有する車を故意に破壊したため、逮捕されました」と話す。バベットにて大規模なストライキが始まったのは、クメール正月が明けた以降で、Sarinさんはその騒動の中で逮捕されることとなった。ストライキで労働者達が求めているのは50ドルの手当の支給である。Collective Union of Movement of Workers (CUMW)の代表Pav Sina氏は、バベットでストライキに参加する労働者達を率いる存在であり、「およそ3万人がストライキに参加していた。Manhattan 経済特区内、山東 Sunshell 経済特区内の工場はすべて操業停止しており、また、Tai Seng 経済特区でも大半の工場が操業停止に追い込まれる事態となった」と話している。

Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC)事務局長のKen Loo氏は、「もし逮捕者が出たというのが本当であれば、それは正しい道へ進むステップです。願わくば、この逮捕者から情報を引き出して他の労働者たちの逮捕に結びつけば、と思っています」と続けた。GMACは、「政府も地方自治体も、ストライキをストップさせるのに有効な手段をひとつとして取っていない」という内容の声明を以前に出しており、その2日後に組織内で会議を開いている。その会議内でLoo氏は、「ストライキは暴動へと変化し、仕事を行おうとする労働者たちは攻撃されました。労働者にまで攻撃をするなんて、初めてではないでしょうか」と話した。

Manhattan 経済特区のKingmaker Footwearで働く19歳のOrn Bandolさんは、「本当は仕事をしたかったけど、殴られたりするのが怖くてできませんでした」と話している。また、41歳のChaet Chendaさんは、今回逮捕されたSarinさんの母親である。「息子の怪我した腕を手当てしていたところ、警察が逮捕しにきました。息子がストライキに参加していたのは確かですが、工場で何か暴力的なことをしたのかどうかまでは私にはわかりません。でも、警察は逮捕状を見せませんでした」と話す。

②5/02、政府が問題解決に急ぐ

スヴァイリエン州バベットで大規模なストライキが続く中、カンボジア労務省はついに労働者たちに対して、ストライキを終わらせて、不満は中再審議会に訴えるようにとの要請を出した。また、労務省のIth Sam Heng氏は、政府主体の国際労働の日のセレモニーで、「現在、雇用者と労働者との間を取り持って話し合いを行わせようと努力している。労働者たちには一刻もはやく仕事に戻ってほしいと思っています」と述べた。

Collective Union of Movement of Workers (CUMW)の代表Pav Sina氏は、「工場の外に集まるか、あるいは家に引きこもるかといった手段をとって、およそ3万人がストライキに参加していた」と主張。

現在の主な原因は、あるひとつの工場がストライキに参加せず仕事をを行った労働者たちに対して、50ドルの手当を支給しており、それを知った労働者達が自分たちにも50ドルを支払うようにと要求しているのだ。しかしSam Heng氏の話では、「現地の労働組合がストライキをけしにかけているのではないか」と話す。労務省からはCUMWの名前が出たことはないが、しかしGMACのKen Loo氏は、「CUMWのSina氏こそがストライキを引き起こしている張本人だ」として何度も名指している。しかし一方のSina氏はそれを否定し、「バベットの労働者たちは自分たちの意思でストライキを始めた」とSina氏が主張する。それに対して、Ken Loo氏は、「ただの言い訳です。いまは暴力沙汰になっているので彼自身ちょっと距離を置きたいだけでしょ」と話した。

Men Sam An 副首相が先日の逮捕者に関して、「警察は車を破壊したとして労働者を一人逮捕している。また、GMACはストライキに参加していた労働者たちが、普通に仕事を行おうとする者たちを攻撃したとして訴えている。一刻もはやく問題を解決できるよう、全力をつくす」と話す。

CUMW のスヴァイリエン代表 Svay Rieng 氏は、「国道 1 号線に沿って並んでいる工場に群がる労働者たちを、警察は何度か追い払いに来ていた。しかしもしこのまま労働者の要求が飲まれないようであれば、ストライキは引き続き行われ国道 1 号線を封鎖することになる」、話している。

③5/05、バベットのストライキ、いよいよ終結へ

スヴァイリエン州バベットでは、経済特区内にほとんど全ての工場が操業停止に追い込まれていたが、5月第1週末、ついに操業を再開。労働者たちは、結局、会社側より 50ドルの手当を支払ってもらう事には失敗したようだ。

Manhattan 経済特区にある Kingmaker 工場の労働者 Pol Samphors さんは、「ストライキが始まった 4月 21日以降のお給料を、それぞれ半日分の金額だけ払ってもらえるようです。オーナーがこれに同意してから、3000人以上が仕事に戻りました。1週間以上もストライキをしましたが、これ以上やっても得るものはなにもありません」と話す。

Collective Union of Movement of Workers で法律を扱っている Kem Chamreoun 氏は、「5/05の時点で、まだストライキがあったのは 2つの工場だけです」、と話した。州の法務部に勤める Has Bunthy 氏は、「半日分の給料だけでは足りない」と主張する労働者もまだいます。Best Way 工場では 10%の労働者がまだ仕事に来ておりません」と話している。

6. Wing Star 社にてストライキ再発

Kampong Speu 州にある縫製工場の何千人もの労働者たちが、5/06、国道3号線をブロックした。彼らが 3月から求めている要求を工場側が満たさなかったことが原因である。Wing Star 靴工場はおよそ 7000人を雇用しているが、労働者たちは 11日前から仕事をストライキしている。参加している労働者の一人 Bin Srey Mom さんは、「3月下旬に結んだ工場側との約束が、結局守られなかったせいだ。私たちは朝の 7時から午後 4時まで国道をブロックしました」と話す。

労働者たちは、昼食代としてプラス 2000 リエルと、健康維持費としてプラス 5ドルの手当を求めている。しかし Wing Star を経営する Mao Sisong 氏は、「これらの要求を飲むかどうかは労働者の動き次第です」、と主張し、労働者に対し、「もし明日までに仕事に戻らないようであれば解雇する」、といった内容の強制命令を出している。

州の労務役員である Chek Borin 氏によると、「国道 3 号線をブロックした労働者たちを立ち退かせようと警察が派遣されたが、彼らは一向に動こうとしなかった」という。Wing Star 工場は日本の靴メーカー Asics にも商品を提供しているが、去年 5月 16日に Wing Star の崩落事故で 2人が死亡している。その原因として、規定の階数より高い違法建築で工場が建てられていたことが半明し、それにより Asics も非難を浴びる結果となった。

7. I-Cheng 工場他にてストライキ

Kampong Speu 州において、ストライキをする労働者が 6人ほど逮捕された。5/08、Takeo 州の I-Cheng (Cambodia) 縫製工場に思いがけず 100人の警官隊が現れ、突然のことに I-Cheng 工場では、赤ちゃん用のミルク代として 5ドルの月額アップと、職場への扇風機導入を要求し、活動していた労働組合の活動家たちは緊張の面持ちとなった。

Collective Union of Movement of Workers (CUMW) の代表 Pav Sina 氏は、「Bati 地区にある I-Cheng (Cambodia) 工場に現れた警官たちは、暴動を防ぐために派遣されたと言っていました、実はそうではなく、2週間続いた前回のストライキを統率した 9人の組合活動家達を逮捕しに来たのです」。そして Kampong Speu 州で逮捕者が出たことを話にあげて、「ストライキに参加したというだけで人が逮捕されてしまうのは、卑劣なことです」、と話した。

Takeo 州の警官隊の Chhim Sorvakdy 氏は、「今回の派遣に関しては逮捕のためではなく、ストライキが公共を害する恐れがあったのでそれを防ぐためのものだった」、と主張。Kampong Speu の Wing Star 工場で起こっているストライキが、Takeo 州でも似たような騒動を引き起こすことにつながるのでは、と彼は危惧しているようだ。「私たちは、労働者らを逮捕しようとはしていません。Wing Star の労働者たちがそうしたように、他の場所でも国道をブロックしたりしては大変だと思ったのです」と Sorvakdy 氏は話した。国道 3 号線をブロックしたことによって Wing Star 社では 6人の逮捕者がでてい。Kampong Speu 警察の副署長 Ouk Sophal 氏は、今回の逮捕に関して知らなかったと話し、また、署長の Keo Pisey 氏はコメントを拒んでいる。

Free Trade Union 代表の Chea Mony 氏は「労働者がストライキを起こしたとき、雇用者や労務省がまず考えるべきことはきちんと交渉を行うということでしょう」と主張している。また、Community Legal Education Center のコンサルタント Joel Preston 氏も、「ストライキ参加者の逮捕、そして I-Cheng 工場における警官隊の出現は、組合側に対して政府がより敵対的な態度をとってきたということです」、と話す。彼の話によると、政府のそういった態度は 1月頃からだんだんと見られるようになり、1週間前にプノンペンで国際労働デーに合わせた集会が行われたときに一層強くなったという。「こういったことは今までありませんでした。組合の権利がこういった風に迫害されるのは、未曾有の出来事です」とも話した。

8. バス会社ストライキの顛末

何週間にも渡って労働者による断続的なストライキが行われていたプノンペン・ソリヤトランスポーテーションは、20人

の労働者に対して、「ストライキを誘発し、また、会社のユニフォームを無断で使用した」として訴えを起こした。ジェネラルマネージャーの Chan Sophanna 氏は、「会社が今回の訴えをプノンペン市裁判所に対して起こしたのは先月の下旬です。この20人は、会社の名誉を傷つけるためにユニフォームを使用しました。また彼らはストライキに参加しようとしないうち他の労働者を脅し、無理やり参加させました。それが訴えた理由です」と話している。

60人以上の労働者が、クメール正月前の4/03にストライキを起こした。その後の交渉を受けて会社側は、「無賃乗車する人の摘発や物を無断で輸送するドライバーを見つけ出すこと」、などの会社の規定を、廃止することに同意した。それ以降は大半の労働者が仕事に戻ってきていた。しかし、訴えられた20人に誘われて、いったん仕事に戻った労働者たちがクメール正月明けに再度ストライキへ参加する流れとなった。その後このデモ活動は、仲裁審議会が間に入ってからようやくクールダウンの様相を見せていた。

バス組合の代表者 Sambath Vorn さんは昨日、組合の副代表 Yem Kuyba さんと活動家の Thun Visal さんの2人が5/09に出廷を命じられたという。この2人はどちらも訴えの対象となっている。副代表の Kuyba さんは、「スケジュールの問題で出廷の日をずらしてもらえよう要求するつもりである」、と話し、さらに、「会社は私を解雇しましたが、私はそれを認めていません。つまり私はまだ会社のスタッフであり、制服を着る権利はあるはずですよ」と主張している。

9. アンコールビールでもストライキ

アンコールビールを製造する工場の労働者たちが、5/10、ついに仕事に復帰した。会社側が、ストライキを終結させるため30ドルの賃上げに同意したためである。

工場長の Cheng Sophak さんの話によると、Preah Sihanouk 州 Cambrew 工場で働く1000人以上の労働者は、1ヶ月に渡って続いていた賃上げ交渉が結局失敗したことをうけ、仕事に来なくなっていた。「経営側は、工場ですべての従業員に30ドルの賃上げを行うことを決定しました。ストライキをしていた者たちだけではありません。工場長の立場にある私も、30ドルの賃上げをしてもらいました」と Sophak さんは話す。賃上げに伴って、試用期間にある労働者は月額120ドル、それ以外の労働者は少なくとも月に150ドルを給料としてもらうことができるようになる。



また労働者のひとりが話すところによると、賃上げとは別に労働者たちは、「工場経営側の立場にあるマレーシア系のスタッフたちに対して、もっと敬意を持って自分たちと接するように」とも要求していたようだ。「交渉のなか、私たちは工場のセクションチーフ達に対して、カンボジア人労働者を見下さないようにとお願いしていました。ホスト国の人間に対して、尊敬の念も持ってほしいと思っています」と。

10. 最近の外資の進出状況

・タイ証券取引所、カンボジア取引所と提携＝人材育成など

5/26、タイ証券取引所(SET)は、資本市場の開発促進のため、カンボジア証券取引所(CSX)と覚書(MOU)を結んだと発表した。人材育成や情報交換などを行う。

・丸紅、マレーシア系企業に20%出資で発送電事業に参入

6/02、丸紅は、カンボジアで発送電事業に参入すると発表した。マレーシア企業HNGキャピタル傘下のリーダー・グループの企業に20%出資し、カンボジアのシアヌークビルでの石炭火力発電所事業などに参画する。具体的には、シアヌークビルで出力10万キロワットの石炭火力発電所を保有・運営するカンボジアン・エナジー社とコンポンチヤムー北プノンペン間の送変電設備を保有・運営するカンボジアン・トランスミッション社の持ち株会社に20%出資することで、株式売買契約を締結した。

・タイ上場IFEC、ゴミ発電所建設

6/06、タイの事務機器販売会社、インター・ファーイースト・エンジニアリング(IFEC)は、プノンペンで廃棄物の処理とゴミを燃料にした発電所建設を行うため、現地当局と覚書(MOU)を結んだと発表した。

以上